事業所名　あいのて　土屋教室（放課後等デイサービス）

支援プログラム

法人（事業所）理念		利用者が自ら選択し遊びを通して成長を促せるように。					
支援方針		選択を尊重し療育にあたる					
営業時間		9 時　0 分から　17 時　0 分まで			送迎実施の有無	あり	なし
		支　援　内　容					
本人支援	健康・生活	・道具の使用と手の操作性を強調して提供する。特に着脱は、外遊びや水遊び等、本人が楽しめる活動の前に重点的に取り組む。・服を頭上に掲げる程度の行動を促すところから、スモールステップで始めていく。・身だしなみや整え方の観点は次のステップとし、大人がサポート・仕上げを行う。					
	運動・感覚	・活動前に全体を指差しする等を行い、全体を見渡す機会を設けてから声をかける。・手の平、足の裏、お尻等体を支えたり、接地している感覚をつかみやすくするため、つかむ・支える・滑る等の要素を取り入れた遊具遊びを提供する。					
	認知・行動	・具体的な伝え方のモデルを大人が示す。・簡単なやり取りを端的に都度促していく（本人がストレスをため込まないように、執拗な繰り返しは行わない）。・本人からの表出や要求に可能な限り応え、伝わったことの楽しさを伝えていく。					
	言語 コミュニケーション	・自信を持って取り組める活動に担任以外の職員と参加する。・活動内容を絵やシンボル等での紹介を通し、選択肢から選ぶことや表現する機会を設ける。					
	人間関係 社会性	・トイレで用を足す、着替える、食事の後や玩具の片付けを行う。・椅子を所定の位置に持ってくる場面において、見本になるこどもの近くに誘う等の関わり・促しを行う。					
家族支援		・本人が自分で考えたり選んだりすることができるように、一呼吸おいてから次の提案をしたり、具体的な選択肢を２つ提示して選ぶ機会を設ける等、具体的な方法をお伝えし、実践していただく。・本人のコミュケーションや判断する仕草等を、個別支援の場面の観察や面談の機会などを通じてお伝えし、共有する。			移行支援	・必要に応じて学校を訪問し、行事等、普段と異なる活動の際のこどもとの関わりについて、具体的な関わり方のモデルを示す。・学校の連絡と当事業所の連絡内容を相互に確認し、日々の様子を交換する（学校からの電子連絡については電子媒体の共有を依頼		
地域支援・地域連携		・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担について協議する。・各関係機関からの情報に基づき、具体的な場面でのこどもとの関わり方の提案や関わり方のポイントについて助言を行う。			職員の質の向上	定期的な研修の実施	
主な行事等		季節の行事など定期的に開催					